再生可能エネルギー設備の提供（太陽光発電・蓄電池）

CO_2削減量 43t-CO2/年
太陽光発電設備を100kW導入した場合
1kWあたり、1,000kWh発電するものとみなした上で、「環境省 特定排出者が調達した非化石証書利用に係る情報」を参照

敷地内に太陽光発電設備を導入し、自社で生み出した再生可能エネルギーを自家消費することが、一定の経済性のある有効な脱炭素化の手法の一つです。更に蓄電池を導入することで余剰電力を活用し、再エネ自給率の向上を目指すことができます。電気の消費量と敷地・施設の条件に沿って最適な設備をご提案いたします。



対象となるお客様

- 脱炭素化と経済性の両方を実現したいお客様
- 屋根や遊休スペースを活用し、脱炭素化に取り組みたいお客様
- 余剰電力の活用やBCP対策に取り組みたいお客様

特長

事務所/工場の屋根や空いた敷地に太陽光パネルを設置し、生み出された電力を敷地内で自家消費する。
経済性が高く、投資回収が期待できる取り組みで、電力コストを抑えられる。
蓄電池を設置することで余剰電力を活用し、再エネ自給率の更なる向上に貢献。また緊急時のBCP対策としても期待ができる。

導入事例


蓄電池システム


カーポート型
太陽光パネル

←福井山田化学工業(ナガセグループ)にカーポート型含む太陽光パネル＋蓄電池システムを設置。
23年10月より稼働を開始し、企業の再エネ普及をサポート。